

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 27 年 12 月 3 日 (2015.12.3)

【公開番号】特開 2014-196509 (P2014-196509A)
 【公開日】平成 26 年 10 月 16 日 (2014.10.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-057
 【出願番号】特願 2014-138569 (P2014-138569)
 【国際特許分類】

C 0 9 J 163/00 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 J 11/04 (2006.01)

【F I】

C 0 9 J 163/00

C 0 9 J 11/06

C 0 9 J 11/04

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 10 月 14 日 (2015.10.14)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 7】

油変位剤

構造用接着剤と、炭化水素含有物質で汚染された被着体の表面と、の間の接着を促進するために、1 つ以上の油変位剤が本発明の構造用接着剤に添加される。炭化水素含有物質は、被着体の加工、処理及び保存から生じ得る種々の表面汚染物質を指す。炭化水素含有物質の例には、鉱油、油脂、乾燥した潤滑油、深絞り加工用油、腐食保護剤、光沢剤及びワックスが挙げられる。しかしながら、表面は、炭化水素含有物質に加えて、他の汚染物質を含み得る。理論に束縛されるものではないが、接着剤内の油変位剤は、接着接合の改善のために、汚染された被着体の表面から接着剤のバルクの中に炭化水素含有物質が移動するのを促進すると考えられている。油変位剤を含む接着剤を使用すると、十分な接合強度が熱硬化工程を必要とせず得られる。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第一部分と第二部分を有する二液型接着剤組成物であって、前記接着剤組成物は、
 前記第一部分にある硬化性エポキシ樹脂と、
 前記第二部分にあるアミン硬化剤と、
 前記第一部分、前記第二部分又はこれらの組み合わせにある強硬化剤と、
 前記第一部分、前記第二部分又はこれらの組み合わせにある油変位剤と、
 前記第一部分、前記第二部分又はこれらの組み合わせにある充填剤と
 を含み、
 前記第一部分と前記第二部分が接着剤を形成するために組み合わせられ、

前記油変位剤が、 $7 \sim 10.5 \text{ cal}^{0.5} / \text{cm}^{3/2}$ の範囲の溶解度パラメータを有し、且つ被着体の表面から前記接着剤のバルクの中に炭化水素含有物質が移動するのを促進し得るものであり、そして

前記充填剤が、37重量%～42重量%の SiO_2 、18重量%～23重量%の Al_2O_3 、34重量%～39重量%の $\text{CaO} + \text{MgO}$ 、0重量%～1重量%の FeO 、及び3重量%の $\text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ を含む無機鉱物繊維を含む、二液型接着剤組成物。

【請求項2】

(i) 前記硬化性エポキシ樹脂がビスフェノールAのジグリシジルエーテルを含み、(ii) 前記強硬化剤がコア/シェル型ポリマー、アクリルポリマー、ブタジエンニトリルゴム又はこれらの組み合わせを含み、(iii) 前記油変位剤が1,8-シネオール、 α -ピネンオキシド、リモネンオキシド、 $\text{C}_{11} \sim \text{C}_{10}$ グリシジルエーテル又はこれらの組み合わせを含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記硬化性エポキシ樹脂が1つ以上のエポキシ部分を有し、前記アミン硬化剤が1つ以上のアミン水素を有し、前記硬化性エポキシ樹脂におけるエポキシ部分対前記アミン硬化剤におけるアミン水素のモル比が0.5:1～3:1の範囲である、請求項1又は2に記載の組成物。

【請求項4】

前記第一部分、前記第二部分又はこれらの組み合わせに反応性液体改質剤を更に含み、前記反応性液体改質剤が、トリ-アセトアセート官能性エステル又はオキサミドエステル末端化ポリプロピレンオキシドを含む、請求項1又は2に記載の組成物。

【請求項5】

室温にて18時間、続いて、180℃にて30分にわたって硬化させた前記接着剤組成物が、ASTM D1002-05に従って測定したときに、少なくとも17.2 MPa (2500 psi) の接着面引っ張り測定値及び、ASTM D1876に従って測定したときに、少なくとも35.0 N/cm幅 (20 lbf/inch幅) のT型剥離測定値を有する、請求項1又は2に記載の組成物。

【請求項6】

複合物品を製造する方法であって、前記方法が、

請求項1又は2に記載の二液型接着剤組成物を表面に適用することと、

前記二液型接着剤組成物を前記表面に接触させたまま硬化して複合物品を形成することと、を含み、前記表面が炭化水素含有物質で汚染されており、かつ前記油変位剤が、前記炭化水素含有物質よりも低い表面張力、前記炭化水素含有物質と同様の溶解度パラメータ、又はこれらの組み合わせを呈する、方法。